

平成 28 年度 成果指標 Can-do 調査の結果： 外国語にかかる教員研修事業 英語教育アドヴァンスト研修

調査対象： 平成 28 年度 英語教育アドヴァンスト研修受講者

調査内容： 研修前後における参加者の能力・授業実践・生徒の能力に関する自己評価の変容

調査方法： 「英語教師としての意識・教育実践に関するアンケート」の事前・事後比較
(30 項目：5 月，1 月)

特に，授業力，生徒の英語力，組織的向上への貢献度に関わる 17 項目を抜粋し、5 件法（5 が最も好ましい）の数字を数値とみなして平均を算出した（N=15）。

選択肢－ 5: 大いにそう思う 4: そう思う 3: どちらともいえない
2: あまりそう思わない 1: そう思わない

結果：

	質問項目（抜粋）	5 月	1 月
授業実践	授業の大半は英語で行っている。	2.8	3.3*
	授業で教科書の内容をオーラルイントロダクションで導入している。	3.3	3.7
	授業で内容理解のためのスモールトークやリスニング活動をしている。	3.5	4.5*
	授業でスピーチやプレゼンテーションをさせている。	3.5	3.9
	授業で英文サマリーや自由作文を書かせている。	3.3	3.7
	教科書の内容に関連した読み物や視聴覚教材を扱っている。	2.7	3.5*
	授業で日本語訳を介さない読解活動をしている。	2.7	3.4*
	授業でペアワークやグループワークを行っている。	4.7	4.9
	授業で内容理解を促す質問を英語でしている。	4.3	4.6
生徒の変容	生徒は授業中のやりとりや活動に積極的に参加している。	4.1	4.6*
	生徒は家庭学習課題にしっかり取り組んでいる。	2.8	3.1
	生徒のリスニング能力は高まっているように見受けられる。	3.0	3.9*
	生徒のリーディング能力は高まっているように見受けられる。	3.3	4.0*
	生徒のスピーキング能力は高まっているように見受けられる。	2.7	3.6*
	生徒のライティング能力は高まっているように見受けられる。	2.9	3.5*
同僚性	研修内容を職場で共有し、英語教育について話し合うことができる。	3.3	3.9*
	生徒の学習状況の観察やデータの分析に基づき、授業改善に向けての対応策を考えることができる。	3.6	4.2*

* Wilcoxon の符号付順位検定 ($p = .05$) で有意差が認められたもの ($p < .05$)

平成 28 年度 成果指標 講座開始直後、終了直後の授業視察： 外国語にかかる教員研修事業 英語教育アドヴァンスト研修

調査対象： 平成 28 年度 英語教育アドヴァンスト研修受講者

調査内容： 研修前後における参加者の授業実践に関する担当者による分析的評価

調査方法： 「授業観察シート(Academia Class Observation Scheme)」における授業力チェック
項目得点、および生徒中心の言語活動時間の授業時間に占める割合の事前・事後比較
(21 項目：6 月，11 月)

結果：

- 教師主導の説明・練習に関する項目（7 項目）の得点平均と生徒中心の言語活動に関する項目（6 項目）の得点平均の事前・事後比較（N=15）

得点－ 3: 優れている 2: 概ね良好である 1: 努力を要す

	6 月	11 月
教師主導の説明・練習に関する項目 の得点平均	1.6	2.3 *
生徒中心の言語活動に関する項目 の得点平均	1.6	2.5 *

* Wilcoxon の符号付順位検定 ($p = .05$) で有意差が認められたもの ($p < .05$)

- 生徒中心の言語活動時間（生徒が自ら 4 技能を使って活動に取り組む時間）の 1 時限に占める割合（%）の事前・事後比較（N=15）

	6 月	11 月
生徒中心の言語活動時間（%）	48.8	64.2

2017 年度 成果指標 Can-do 調査の結果： 外国語にかかる教員研修事業 英語教育アドヴァンスト研修

調査対象： 2017 年度 英語教育アドヴァンスト研修受講者

調査内容： 研修前後における参加者の能力・授業実践・生徒の能力に関する自己評価の変容

調査方法： 「英語教師としての意識・教育実践に関するアンケート」の事前・事後比較
(30 項目：5 月，1 月)

特に，授業力，生徒の英語力，組織的向上への貢献度に関わる 17 項目を抜粋し，5 件法（5 が最も好ましい）の数字を数値とみなして平均を算出した（N=15）。

選択肢－ 5: 大いにそう思う 4: そう思う 3: どちらともいえない
2: あまりそう思わない 1: そう思わない

結果：

	質問項目（抜粋）	5 月	1 月
授業実践	授業の大半は英語で行っている。	2.9	3.7
	授業で教科書の内容をオーラルイントロダクションで導入している。	3.2	4.1*
	授業で内容理解のためのスモールトークやリスニング活動をしている。	3.1	3.9*
	授業でスピーチやプレゼンテーションをさせている。	2.5	3.2
	授業で英文サマリーや自由作文を書かせている。	2.3	3.1*
	教科書の内容に関連した読み物や視聴覚教材を扱っている。	2.9	3.8*
	授業で日本語訳を介さない読解活動をしている。	2.5	3.7*
	授業でペアワークやグループワークを行っている。	4.5	4.9*
	授業で内容理解を促す質問を英語でしている。	3.1	3.9
生徒の変容	生徒は授業中のやりとりや活動に積極的に参加している。	3.9	4.1
	生徒は家庭学習課題にしっかり取り組んでいる。	2.7	2.9
	生徒のリスニング能力は高まっているように見受けられる。	2.6	3.7*
	生徒のリーディング能力は高まっているように見受けられる。	2.8	3.9*
	生徒のスピーキング能力は高まっているように見受けられる。	2.4	3.5*
	生徒のライティング能力は高まっているように見受けられる。	2.1	3.1*
貢献組織への	研修内容を職場で共有し、英語教育について話し合うことができる。	3.5	3.9
	生徒の学習状況の観察やデータの分析に基づき、授業改善に向けての対応策を考えることができる。	3.5	4.3*

* Wilcoxon の符号付順位検定 ($p = .05$) で有意差が認められたもの ($p < .05$)

2017 年度 成果指標 講座開始直後、終了直後の授業視察： 外国語にかかる教員研修事業 英語教育アドヴァンスト研修

調査対象： 2017 年度 英語教育アドヴァンスト研修受講者

調査内容： 研修前後における参加者の授業実践に関する担当者による分析的評価

調査方法： 「授業観察シート(Academia Class Observation Scheme)」における授業力チェック
項目得点、および生徒中心の言語活動時間の授業時間に占める割合の事前・事後比較
(21 項目：6 月，11 月)

結果：

- 教師主導の説明・練習に関する項目（7 項目）の得点平均と生徒中心の言語活動に関する項目（6 項目）の得点平均の事前・事後比較（N=15）

得点－ 3: 優れている 2: 概ね良好である 1: 努力を要す

	6 月	11 月
教師主導の説明・練習に関する項目 の得点平均	1.6 (1.6)	2.2 * (2.3*)
生徒中心の言語活動に関する項目 の得点平均	1.4 (1.6)	2.5 * (2.5*)

* Wilcoxon の符号付順位検定 ($p = .05$) で有意差が認められたもの ($p < .05$)
() は 2016 年度

- 生徒中心の言語活動時間（生徒が自ら 4 技能を使って活動に取り組む時間）の 1 時限に占める割合 (%) の事前・事後比較（N=15）

	6 月	11 月
生徒中心の言語活動時間 (%)	42.4 (48.8)	54.3 (64.2)

() は 2016 年度

2018 年度 成果指標 Can-do 調査の結果： 外国語にかかる教員研修事業 英語教育アドヴァンスト研修

調査対象： 2018 年度 英語教育アドヴァンスト研修受講者

調査内容： 研修前後における参加者の能力・授業実践・生徒の能力に関する自己評価の変容

調査方法： 「英語教師としての意識・教育実践に関するアンケート」の事前・事後比較
(30 項目：5 月，1 月)

特に，授業力，生徒の英語力，組織的向上への貢献度に関わる 17 項目を抜粋し，5 件法（5 が最も好ましい）の数字を数値とみなして平均を算出した（N=15）。

選択肢－ 5: 大いにそう思う 4: そう思う 3: どちらともいえない
2: あまりそう思わない 1: そう思わない

結果：

	質問項目（抜粋）	5 月	1 月
指 4 導 技 力 能 の	聞く能力のための指導をすることができる。	3.4	3.9
	読む能力のための指導をすることができる。	3.6	3.9
	話す能力のための指導をすることができる。	3.5	4.1*
	書く能力のための指導をすることができる。	3.5	4.0*
授 業 実 践	授業の大半は英語で行っている。	3.4	4.0*
	授業で教科書の内容をオーラルイントロダクションで導入している。	3.7	4.4*
	授業で内容理解のためのスモールトークやリスニング活動をしている。	4.0	4.5
	授業でスピーチやプレゼンテーションをさせている。	3.4	3.6
	授業で英文サマリーや自由作文を書かせている。	3.7	4.2
	教科書の内容に関連した読み物や視聴覚教材を扱っている。	3.8	3.7
	授業で日本語訳を介さない読解活動をしている。	3.1	3.7
	授業でペアワークやグループワークを行っている。	4.7	4.7
生 徒 の 変 容	授業で内容理解を促す質問を英語でしている。	3.7	4.3*
	生徒は授業中のやりとりや活動に積極的に参加している。	4.1	4.5*
	生徒は家庭学習課題にしっかり取り組んでいる。	3.0	2.7
	生徒のリスニング能力は高まっているように見受けられる。	3.2	3.1
	生徒のリーディング能力は高まっているように見受けられる。	3.0	4.0*
	生徒のスピーキング能力は高まっているように見受けられる。	3.0	3.7*
貢 組 献 織 へ の	生徒のライティング能力は高まっているように見受けられる。	3.1	3.9
	共通の指導目標の確立とそれに基づく教育実践に貢献することができる。	3.5	4.1
	生徒の学習状況の観察やデータの分析に基づき、授業改善に向けての対応策を考えることができる。	3.9	3.9

* Wilcoxon の符号付順位検定 ($p = .05$) で有意差が認められたもの ($p < .05$)

2018 年度 成果指標 講座開始直後、終了直後の授業視察： 外国語にかかる教員研修事業 英語教育アドヴァンスト研修

調査対象： 2018 年度 英語教育アドヴァンスト研修受講者

調査内容： 研修前後における参加者の授業実践に関する担当者による分析的評価

調査方法： 「授業観察シート(Academia Class Observation Scheme)」における授業力チェック
項目得点、および生徒中心の言語活動時間の授業時間に占める割合の事前・事後比較
(21 項目：6 月, 11 月)

結果：

- 教師主導の説明・練習に関する項目 (7 項目) の得点平均と生徒中心の言語活動に関する項目 (6 項目) の得点平均の事前・事後比較 (N=14, 教師主導の説明・練習の時間が 0 分であったケース 1 件を除く)

得点－ 3: 優れている 2: 概ね良好である 1: 努力を要す

	6 月	11 月
教師主導の説明・練習に関する項目 の得点平均	1.4 (1.6)	2.1* (2.2*)
生徒中心の言語活動に関する項目 の得点平均	1.6 (1.4)	2.2* (2.5*)

* Wilcoxon の符号付順位検定 ($p = .05$) で有意差が認められたもの ($p < .05$)
() は 2017 年度

- 生徒中心の言語活動時間 (生徒が自ら 4 技能を使って活動に取り組む時間) の 1 時限に占める割合 (%) の事前・事後比較 (N=15)

	6 月	11 月
生徒中心の言語活動時間 (%)	42.1 (42.4)	50.6 (54.3)

() は 2017 年度

2019 年度 成果指標 Can-do 調査の結果： 外国語にかかる教員研修事業 英語教育アドヴァンスト研修

調査対象： 2019 年度 英語教育アドヴァンスト研修受講者

調査内容： 研修前後における参加者の能力・授業実践・生徒の能力に関する自己評価の変容

調査方法： 「英語教師としての意識・教育実践に関するアンケート」の事前・事後比較
(30 項目：5 月，1 月)

特に，授業力，生徒の英語力，組織的向上への貢献度に関わる 21 項目を抜粋し，5 件法（5 が最も好ましい）の数字を数値とみなして平均を算出した（N=15）。

選択肢－ 5: 大いにそう思う 4: そう思う 3: どちらともいえない
2: あまりそう思わない 1: そう思わない

結果：

	質問項目（抜粋）	5 月	1 月
指 4 導 技 力 能 の	聞く能力のための指導をすることができる。	2.8	3.3*
	読む能力のための指導をすることができる。	3.3	3.9*
	話す能力のための指導をすることができる。	2.9	3.8*
	書く能力のための指導をすることができる。	3.0	3.6*
授 業 実 践	授業の大半は英語で行っている。	2.5	3.2*
	授業で教科書の内容をオーラルイントロダクションで導入している。	3.2	4.1*
	授業で内容理解のためのスモールトークやリスニング活動をしている。	3.2	3.9
	授業でスピーチやプレゼンテーションをさせている。	2.8	3.5
	授業で英文サマリーや自由作文を書かせている。	2.5	3.4*
	教科書の内容に関連した読み物や視聴覚教材を扱っている。	3.1	3.9
	授業で日本語訳を介さない読解活動をしている。	2.3	3.4*
	授業でペアワークやグループワークを行っている。	4.3	4.7*
生 徒 の 変 容	授業で内容理解を促す質問を英語でしている。	3.0	3.8*
	生徒は授業中のやりとりや活動に積極的に参加している。	3.7	4.3*
	生徒は家庭学習課題にしっかり取り組んでいる。	2.1	2.6
	生徒のリスニング能力は高まっているように見受けられる。	2.7	3.5*
	生徒のリーディング能力は高まっているように見受けられる。	3.3	3.5
	生徒のスピーキング能力は高まっているように見受けられる。	2.6	3.7*
貢 組 献 織 へ の	生徒のライティング能力は高まっているように見受けられる。	2.7	3.3*
	共通の指導目標の確立とそれに基づく教育実践に貢献することができる。	3.7	3.9
	生徒の学習状況の観察やデータの分析に基づき、授業改善に向けての対応策を考えることができる。	3.1	4.0*

* Wilcoxon の符号付順位検定 ($p = .05$) で有意差が認められたもの ($p < .05$)

2019 年度 成果指標 講座開始直後、終了直後の授業視察： 外国語にかかる教員研修事業 英語教育アドヴァンスト研修

調査対象： 2019 年度 英語教育アドヴァンスト研修受講者

調査内容： 研修前後における参加者の授業実践に関する担当者による分析的評価

調査方法： 「授業観察シート(Academia Class Observation Scheme)」における授業力チェック
項目得点、および生徒中心の言語活動時間の授業時間に占める割合の事前・事後比較
(21 項目：6 月, 11 月)

結果：

- 教師主導の説明・練習に関する項目 (7 項目) の得点平均と生徒中心の言語活動に関する項目 (6 項目) の得点平均の事前・事後比較 (N=14, 教師主導の説明・練習の時間が 0 分であったケース 1 件を除く)

得点－ 3: 優れている 2: 概ね良好である 1: 努力を要す

	6 月	11 月
教師主導の説明・練習に関する項目 の得点平均	1.5 (1.4)	2.2* (2.1*)
生徒中心の言語活動に関する項目 の得点平均	1.7 (1.6)	2.2* (2.2*)

* Wilcoxon の符号付順位検定 ($p = .05$) で有意差が認められたもの ($p < .05$)
() は 2018 年度

- 生徒中心の言語活動時間 (生徒が自ら 4 技能を使って活動に取り組む時間) の 1 時限に占める割合 (%) の事前・事後比較 (N=15)

	6 月	11 月
生徒中心の言語活動時間 (%)	39.4 (42.1)	48.0 (50.6)

() は 2018 年度

2020 年度 成果指標 Can-do 調査の結果： 外国語にかかる教員研修事業 英語教育アドヴァンスト研修

調査対象： 2020 年度 英語教育アドヴァンスト研修受講者

調査内容： 研修前後における参加者の能力・授業実践・生徒の能力に関する自己評価の変容

調査方法： 「英語教師としての意識・教育実践に関するアンケート」の事前・事後比較
(30 項目：5 月，1 月)

特に，授業力，生徒の英語力，組織的向上への貢献度に関わる 21 項目を抜粋し，5 件法（5 が最も好ましい）の数字を数値とみなして平均を算出した（N=9）。

選択肢－ 5: 大いにそう思う 4: そう思う 3: どちらともいえない
2: あまりそう思わない 1: そう思わない

結果：

	質問項目（抜粋）	5 月	1 月
指 4 導 技 力 能 の	聞く能力のための指導をすることができる。	3.1	3.3
	読む能力のための指導をすることができる。	3.6	3.7
	話す能力のための指導をすることができる。	3.4	3.8
	書く能力のための指導をすることができる。	3.6	3.7
授 業 実 践	授業の大半は英語で行っている。	3.2	3.4
	授業で教科書の内容をオーラルイントロダクションで導入している。	3.4	4.0*
	授業で内容理解のためのスモールトークやリスニング活動をしている。	3.7	4.3
	授業でスピーチやプレゼンテーションをさせている。	4.1	3.7
	授業で英文サマリーや自由作文を書かせている。	4.1	3.9
	教科書の内容に関連した読み物や視聴覚教材を扱っている。	4.3	4.3
	授業で日本語訳を介さない読解活動をしている。	3.7	3.8
	授業でペアワークやグループワークを行っている。	4.7	4.8
	授業で内容理解を促す質問を英語でしている。	3.7	3.8
生 徒 の 変 容	生徒は授業中のやりとりや活動に積極的に参加している。	4.0	4.4
	生徒は家庭学習課題にしっかり取り組んでいる。	3.2	3.2
	生徒のリスニング能力は高まっているように見受けられる。	3.2	3.6
	生徒のリーディング能力は高まっているように見受けられる。	3.3	4.0
	生徒のスピーキング能力は高まっているように見受けられる。	3.3	4.1
	生徒のライティング能力は高まっているように見受けられる。	3.3	3.6
貢 組 献 織 へ の	共通の指導目標の確立とそれに基づく教育実践に貢献することができる。	3.8	3.7
	生徒の学習状況の観察やデータの分析に基づき、授業改善に向けての対応策を考えることができる。	3.6	4.0

* Wilcoxon の符号付順位検定 ($p = .05$) で有意差が認められたもの ($p < .05$)

(注) 2020 年度は研修前・後において統計的有意差が認められた項目は一つにとどまったが、全体として 5 月時点での項目全体平均値が 3.68 と高く、2019 年度の研修後の平均値と同じであったことや、コロナ禍の影響で対面での言語活動や指導の工夫による効果の実感を得にくかったなどの要因があると考えられる。

2020 年度 成果指標 講座開始直後、終了直後の授業視察： 外国語にかかる教員研修事業 英語教育アドヴァンスト研修

調査対象： 2020 年度 英語教育アドヴァンスト研修受講者

調査内容： 研修前後における参加者の授業実践に関する担当者による分析的評価

調査方法： 「授業観察シート(Academia Class Observation Scheme)」における授業力チェック
項目得点、および生徒中心の言語活動時間の授業時間に占める割合(※)
(21 項目：11 月)

(※) 2020 年度は 6 月に予定されていた学校訪問が中止とたったため、事前・事後
データの比較ではなく、第 2 回授業視察の結果に基づき研修成果を評価した。

結果：

- 教師主導の説明・練習に関する項目（7 項目）の得点平均と生徒中心の言語活動に関する項目
（6 項目）の得点平均

得点－ 3: 優れている 2: 概ね良好である 1: 努力を要す

	6 月	11 月
教師主導の説明・練習に関する項目 の得点平均	未実施 (1.5)	2.2 (2.2*)
生徒中心の言語活動に関する項目 の得点平均	未実施 (1.7)	2.4 (2.2*)

* Wilcoxon の符号付順位検定 ($p = .05$) で有意差が認められたもの ($p < .05$)
() は 2019 年度

- 生徒中心の言語活動時間（生徒が自ら 4 技能を使って活動に取り組む時間）の 1 時限に占める
割合 (%) の事前・事後比較 (N=15)

	6 月	11 月
生徒中心の言語活動時間 (%)	未実施 (39.4)	42.7 (48.0)

() は 2019 年度